

提 言

1. 情報化への従業員の積極的な意欲を重視すべき

情報システムの改革に対して、推進に賛成する人は8割を超えている。非経験者の内にはイメージ先行的な部分もあるが、情報機器を良く利用している人の多くは実際にその効果を認めている。働く者の旺盛な意欲と現実の効果を考え、情報化技術の積極的導入を図る必要がある。

2. ネットワーク化により、さらなる生産性の向上を

情報化技術のネットワーク効果としては、情報の共有化、情報伝達の迅速性、時間・場所からのフリー、情報交換範囲の拡大などの効果があり、さらにそれらの効果はネットワークの網が広がるほど大きくなる。ネットワーク環境が整っている職場はまだ2割強にしかすぎないために、まずこれを整備することが必要であるが、同時に情報の共有化と意思決定の迅速性といった長所を活かせるような業務の革新、新しいチームワーク体制を構築することが肝心である。

3. 不安感を取り除くために、まず情報化技術教育の充実とサポート体制の確立を

情報化への取り組みが本格化して間もないところが多いため、情報化技術の習得状況はワープロレベルの者が少なくなく、それが不安感を生む要因の一つとなっている。それに対しては彼らに対する教育は無論のこと、必要なときに気兼ねなくたずねることができる者が身近に存在するといったサポート体制の効果は大きい。また、経験者の成功体験、そこで得たノウハウを広く普及させるといった仕組みなども効果がある。

4. 明確な情報化の目標設定とそれに見合った勤務形態の検討を忘れずに

情報化技術の進展は目覚しく、それゆえに情報機器に精通している者でも将来的に不安感を抱いている。現状では周囲の彼らへの期待度は大きく、そのた

め彼らの緊張感もかなり高い。それにもかかわらず、彼らの能力向上への努力に報いる評価システムは確立していない。働く者の不安感、ストレスを解消し、能力向上への意欲を高めるために、情報機器は一つのツールであるという認識を常に念頭に置いた上で、職場における具体的な情報化目標の設定とそれに応じた評価システムの導入が求められる。また、時間的・空間的な制約を弱めるという情報化技術のメリットを生かした勤務形態についても充分検討に値する。

5. 肉体的疲労にも配慮を

全体の6割の人が情報機器の長時間使用によって眼精疲労や肩こりなどの肉体的な疲労が増したと答えている。情報機器は便利なツールであるがゆえに、ある程度使いこなすことができると、往々にして情報洪水を引き起こし、単純なオペレータ業務が増加する可能性がある。そうした状況を引き起こしている原因の究明と対策が必要である。